

平成25年度
次期総合計画策定に向けた取組

川 越 市

6月24、25、28日 オープンカフェの開催



次期総合計画の策定に向けた職員プロジェクトチームのメンバーを募集するため、自由参加の説明会（「オープンカフェ」）を開催しました。説明会では、職員同士が意見交換を行うワークショップ方式により実施し、若手職員を中心に3日間で119名の職員の参加がありました。

■オープンカフェの内容

6月24、25、28日の3日間、本庁舎地下食堂を会場として、業務時間外に開催しました。

すべての職員を対象に自由参加としました。会場には以下のコーナーを設け、無料で飲み物を提供するなど、和やかな雰囲気でも語り合う場となるよう心がけました。

- 他市計画閲覧コーナー
- 質問コーナー
- ワークショップコーナー
- 映像上映コーナー
- ラウンジコーナー



7月25日 チャレンジ未来100の発足



公募より選ばれた職員プロジェクトチーム「チャレンジ未来100」を発足しました。任期は平成26年度末までとして7月25日に委嘱式を行いました。職員57名が担当分野に分かれて、次期総合計画の策定に向けた調査・研究活動に取り組みました。

■現行の総合計画の各分野や個別分野について、調査研究を行った。

総合計画分野	個別分野
共通章	行政経営
1章 保健医療福祉	社会資本マネジメント
2章 教育・文化・スポーツ	シティーセールス
3章 都市基盤・生活基盤	地域内分権
4章 産業・観光	地域
5章 環境	
6章 地域社会と市民生活	



チャレンジ未来100のシンボルマーク

“**チャレンジ未来100**”とは本計画の策定において中心的な役割を果たす職員プロジェクトの愛称である。役職や職種・仕事内容などにとらわれず、市制100年を目指した未来の川越づくりに仲間といっしょにチャレンジする意欲のある職員を集めて結成した。



チャレンジ未来100を中心とした庁内推進体制を整備するため、副部長級職員からなるチャレンジ応援団、出張所長・公民館長からなるチャレンジエリア応援団、さらには企画担当、地域担当など多くの職員が関わりながら次期総合計画の取組が進むようにしました。



■具体的な推進体制は以下のとおりです

名称	役割内容
チャレンジ応援団	副部長級の職員から選任。チャレンジ未来100の活動に対する助言・相談を行う。
チャレンジエリア応援団	出張所長、公民館長に選任を依頼。地域活動への助言・相談を行う。
企画担当	各課から選任。調査回答やヒアリングなどに協力する。
地域担当	各公民館職員から選任。エリアインタビューなどに協力する。





これからの社会状況に対応した計画づくりを行うため、主にチャレンジ未来100のメンバー及び企画・地域担当職員を対象に職員研修会を開催しました。参加職員は81名でした。

次期総合計画策定に向けた職員研修会

- テーマ 人口減少時代のまちづくり
- 講師 日本総合研究所 主席研究員
藻谷浩介氏
- 実施日 平成25年8月28日(水)
- 会場 中央図書館 3階・視聴覚ホール



【講師略歴】

山口県生まれの48歳。平成合併前3,200市町村の99.9%、海外59ヶ国をほぼ私費で訪問し、地域特性を多面的に把握。東大法学部卒業、日本開発銀行入行、米国コロンビア大学ビジネススクール留学、日本経済研究所出向などを経ながら、2000年頃より地域振興の各分野で精力的に研究・著作・講演を行う。2012年より現職。公職やテレビ出演多数。近著「デフレの正体」(角川Oneテーマ21)はベストセラーとなった。

10～12月 エリアインタビューの実施

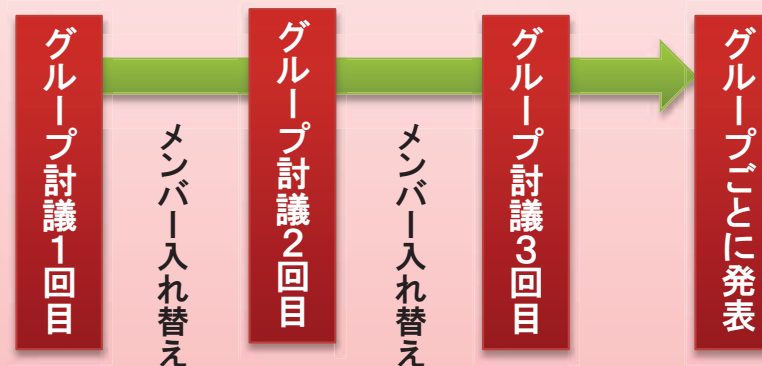


地域の課題を聴き、地域ごとの共通の課題や異なる課題を整理するため、17のすべての公民館を会場として、エリアインタビューを2回ずつ計34回実施し、延べ591名の市民の参加を得ることができました。

テーマは1回目は総合計画の「行政分野ごとの魅力と課題」とし、2回目は「ずっと住み続けていくためには、何に力を入れるべきか」としました。



エリアインタビューの話し合いの方法



ワールド・カフェ方式によるワークショップをおこないました。この方式は“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていく手法です。

10～12月 エリアインタビューの実施



2回目のエリアインタビューのまとめとしては、右の表のとおりとなりました。

- 「コミュニティ」を上位5位までに挙げた公民館が17公民館中15館に及び、「コミュニティ」に対する市民の関心の高さは川越市全体的なことと思われる。
- 「交通」を上位5位までに挙げた公民館が9館、「道路整備」は6館あった。
- 地域に特色があるキーワードとして、「観光」（中央）、「まつり」（北）、「農業」（福原）などが挙げられる。

■キーワードごとにまとめた上で上位5つを抽出

	1	2	3	4	5
中央公民館	コミュニティ	観光	空き家対策	高齢者	防犯防災
南公民館	コミュニティ	高齢者	子育て	駅前周辺開発	交通(通学路)
北公民館	子育て	空き家対策	コミュニティ	まつり	交通(通学路)
芳野公民館	公民館	自治会	交通(通学路)	コミュニティ	高齢者
古谷公民館	コミュニティ	買い物	道路整備	高齢者	教育(学校)
南古谷公民館	コミュニティ	高齢者	教育(学校)	地域活性化	自然環境、生活環境
高階公民館	行政サービス向上	防犯防災	コミュニティ	交通(通学路)	自然環境、生活環境
高階南公民館	道路整備	生活環境	教育(学校)	医療	コミュニティ
福原公民館	農業	コミュニティ	高齢者	公共施設	地域の歴史文化
大東公民館	行政サービス向上	道路整備	交通(通学路)	公園	コミュニティ
大東南公民館	道路整備	コミュニティ	高齢者	防犯防災	医療
山田公民館	教育(学校)	コミュニティ	交通(通学路)	防犯防災	高齢者
名細公民館	教育(学校)	地域活性化	コミュニティ	自然環境	下水道
霞ヶ関公民館	交通(通学路)	道路整備	コミュニティ	自然環境	公園
霞ヶ関北公民館	交通(通学路)	生活環境	高齢者	道路整備	防犯防災
伊勢原公民館	教育(学校)	ボランティア	交通(通学路)	防犯防災	自治会
川鶴公民館	コミュニティ	教育(学校)	医療	交通(通学路)	行政サービス

11月～12月末 ポスターセッションの実施

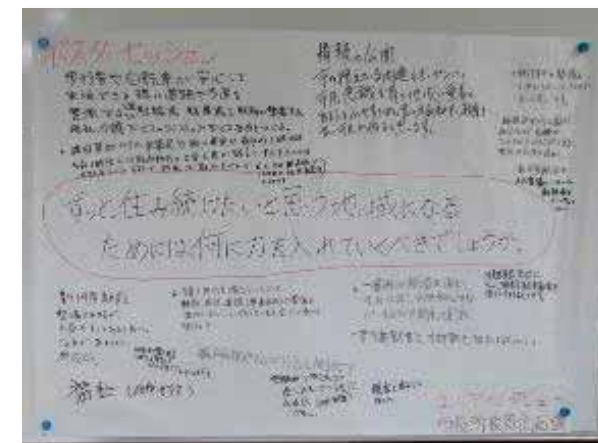


すべての17公民館において、「ずっと住み続けたいと思う地域になるためには、何に力を入れるべきか」をテーマとして模造紙を設置し、地域住民に自由に意見を書き込んでもらいました。

分析結果は、市全体の共通ニーズは「コミュニティ」であり、これはエリアインタビューと同様の結果でした。

公民館別のもっとも記入されていたキーワード一覧

公民館名(キーワード)	公民館名(キーワード)	公民館名(キーワード)
中央(子育て)	高階南(商業施設)	霞ヶ関(コミュニティ)
南(伊佐沼整備)	福原(コミュニティ)	霞北(マナー)
北(コミュニティ)	大東(医療、交通)	伊勢原(交通、商業)
古谷(商業など)	大東南(商業施設)	川鶴(コミュニティなど)
南古谷(コミュニティ)	山田(福祉)	芳野(コミュニティ)
高階(娯楽など)	名細(コミュニティ)	



※各公民館から回収した模造紙をデータ化し、KJ法により分析を行いました。上位3位までのキーワードを分析すると「コミュニティ」と「自然環境」を挙げた公民館が9館でした。

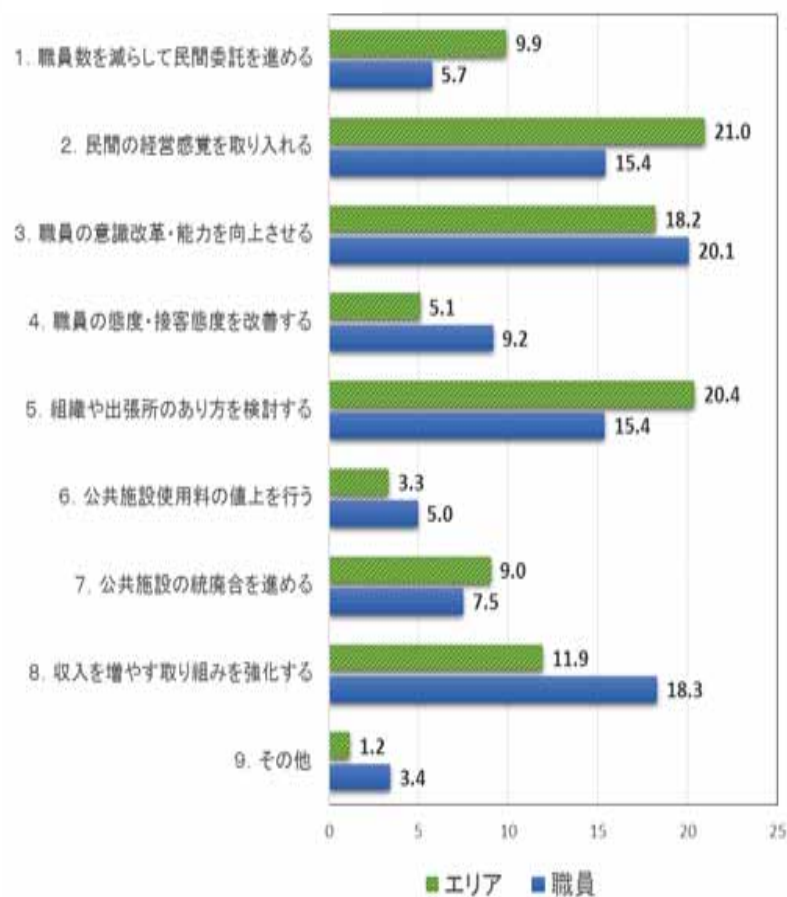
11月 職員意識アンケートの実施



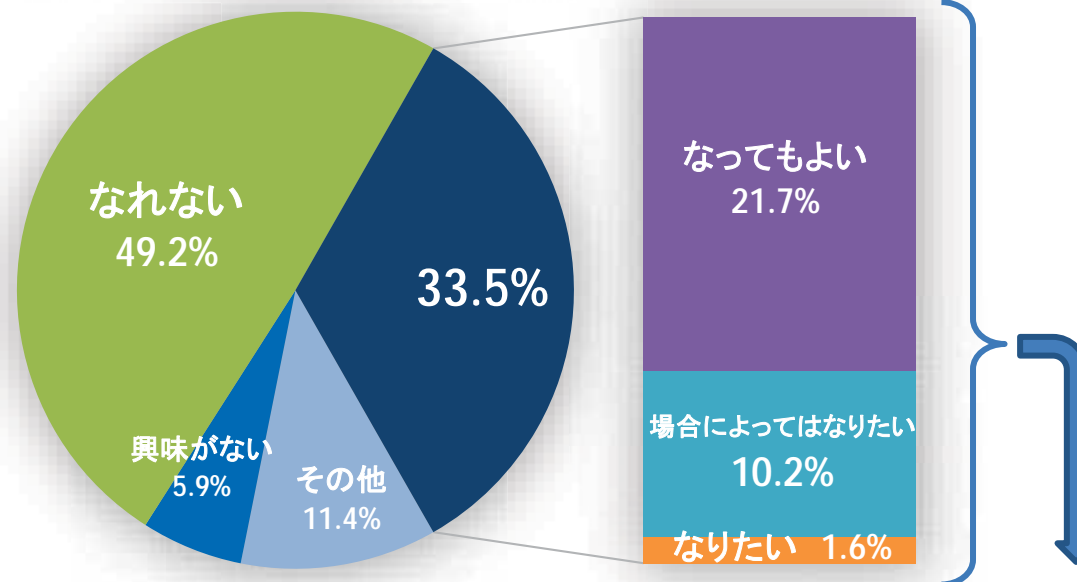
エリアインタビューにおけるアンケート結果と職員の意識の違いを把握するため、さらには地域内分権を進めるため、職員アンケートを実施し、695名の職員から回答を得ました。

結果としては、今後必要な改革については、市民と職員の意見については、大きな相違がないことが確認できました。また、地域担当職員についても、33.5%の職員が地域との関わりに興味があることがわかりました。

■今後必要な改革について (職員と市民意見の比較)



■地域担当職員について



質問項目	実数(人)	割合(%)
1 指名されれば「地域担当職員」となってもよい	151人	21.7%
2 地域コミュニティには興味があり場合によっては「地域担当職員」になりたい	71人	10.2%
3 地域の活性化や自分の経験のため、立候補して「地域担当職員になりたい	11人	1.6%

1月29日 庁内インナーミーティングの開催



10年後の川越市をテーマとして組織の垣根を越えて職員がオープンに話し合うため、OST（オープンスペーステクノロジー）という手法を参考に庁内インナーミーティングを開催しました。74名の職員が参加し、「ブランド力を高めていく小江戸川越」など11のテーマが出され、話し合いと発表を行いました。



このミーティングでは、エリアインタビューでの市民意見を踏まえ、自分たちが話し合いたいテーマを自由に掲げながら、自律的に話し合いを行いました。

「地域力の強いまち」、「地震に立ち向かえるまち」、「子育てストレスのないまち」、「ブランド力を高めていく小江戸川越」など、参加者から11のテーマが提案されました。

インナーミーティングの主な流れ



参加者が自ら前に進んでテーマを掲げる



各自、希望するテーマに分かれて約1時間の議論



チームごとに発表し、最も関心の高いものに投票する

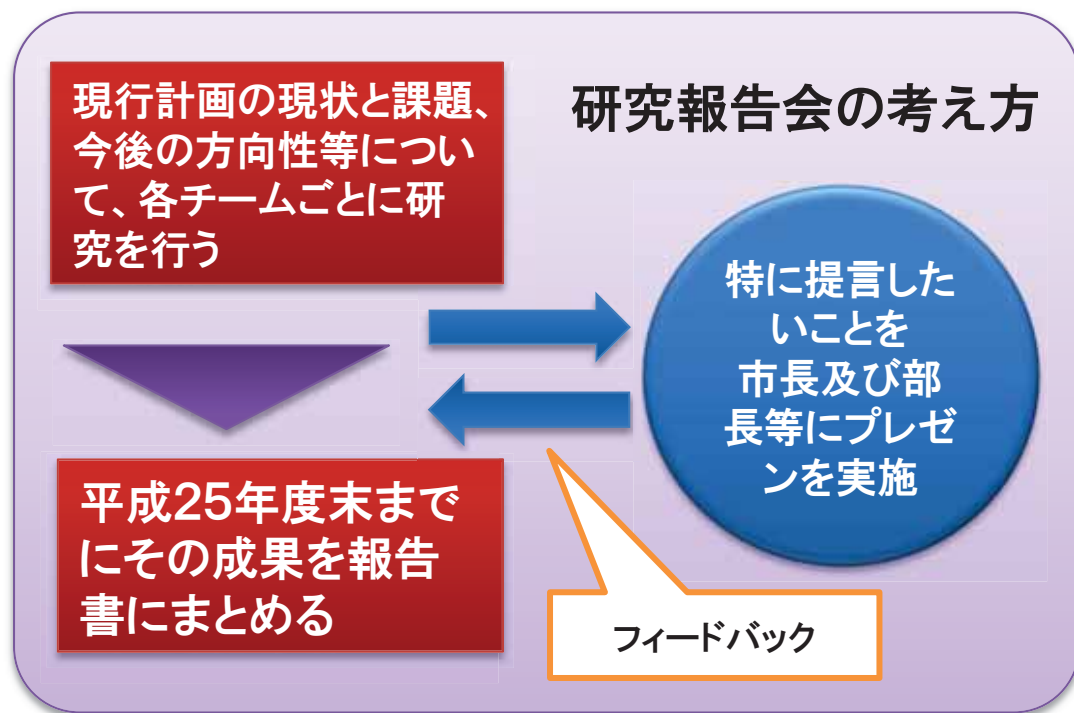


最後に選ばれたテーマについて、皆で議論



市長及び部長等に対して、チャレンジ未来100メンバーの各チームの研究内容について、政策提言(プレゼンテーション)を実施しました。

市長及び部長等からは、提言された内容が次期総合計画に生かされるにはどうしたらよいかなど、さまざまな意見等が出されました。こうした意見については、作成を進めている報告書に生かすようにしました。



取組の経緯と市民・職員参加のまとめ



平成25年

- 6月24、25、28日 オープンカフェ開催（職員119名）
- 7月～8月
 - ・チャレンジ未来100発足及び任命
 - ・チャレンジ応援団、チャレンジエリア応援団、企画担当、地域担当発足及び任命
- 8月28日 職員研修会の実施（職員81名）
- 10月～12月
 - ・エリアインタビュー（公民館17館×2回、計34回）実施（市民591名）
 - ・アンケート調査実施（職員及びエリアインタビュー参加者）
 - ・ポスターセッション実施

平成26年

- 1月29日 庁内インナーミーティングの開催（職員74名）
- 2月12、13日 チャレンジ未来報告会

市民・職員の参加状況

市民	職員（イベント参加）	職員（組織体制）	合計
延べ591名 （エリアインタビュー参加者）	延べ274名 （オープンカフェ、研修会、インナーミーティング）	延べ219名 （チャレンジ、応援団、エリア応援団、企画担当、地域担当）	延べ1084名 （イベント参加では延べ865名）